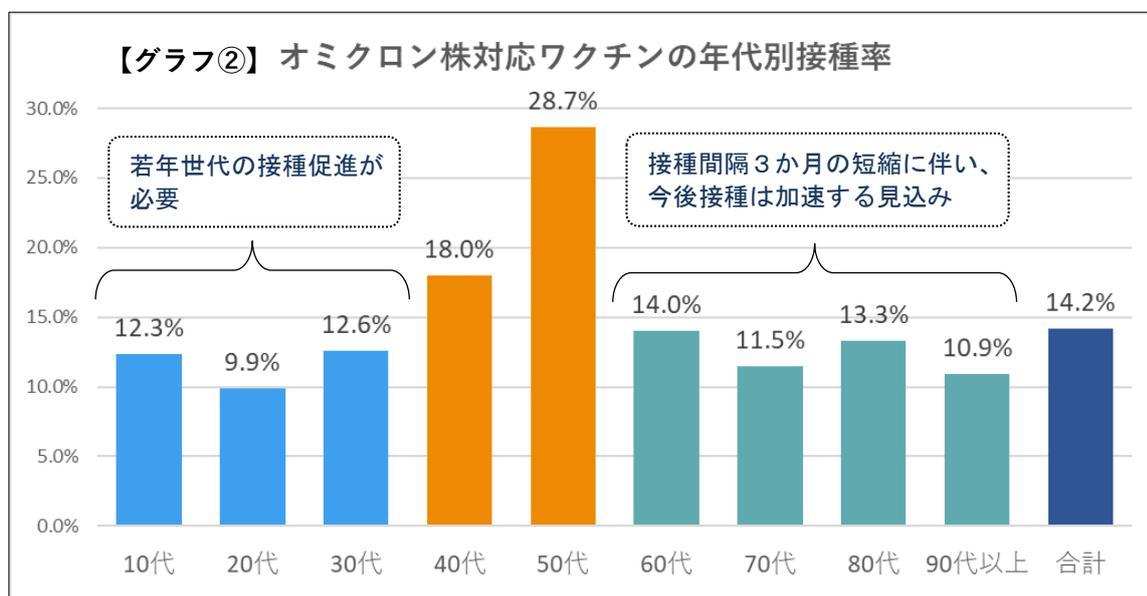
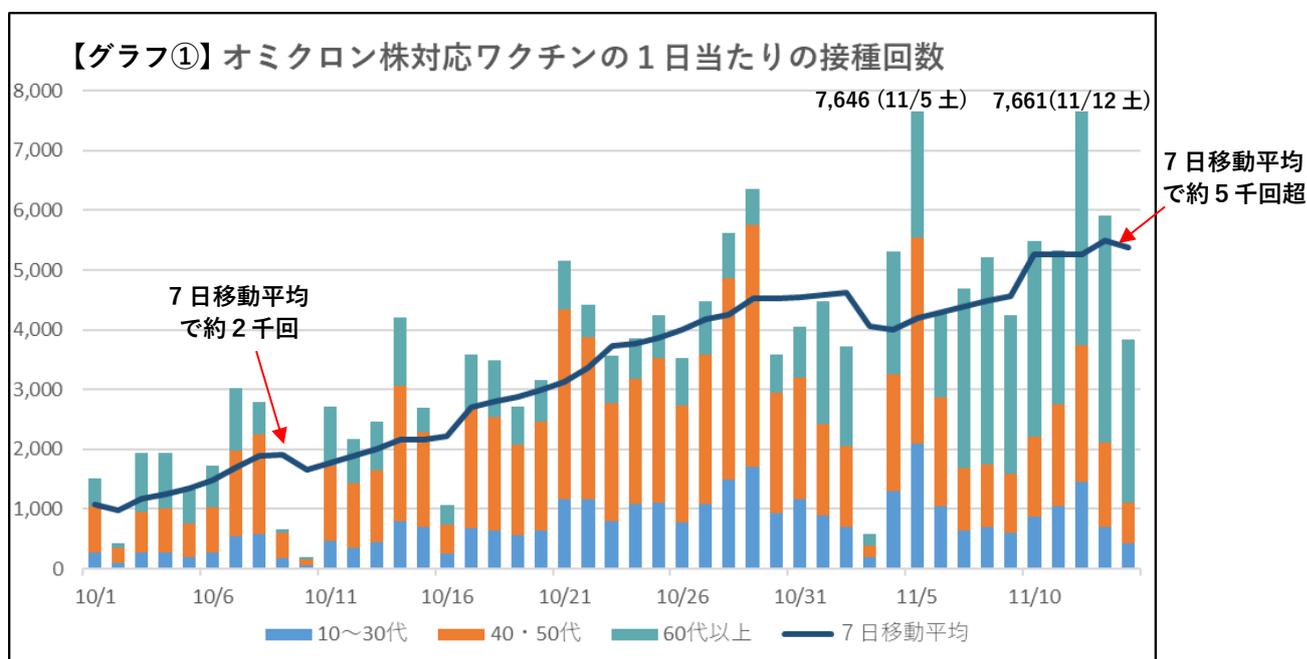


## オミクロン株対応ワクチンの接種について

## 1 オミクロン株対応ワクチンの接種状況

- (1) オミクロン株対応ワクチンについて、県内では、11月16日時点で約17万回の接種が実施されており、全人口に占める接種率は14.2%で、全国の接種率11.0%を上回っている。
- (2) また、1日当たりの接種回数は順調に増えており、年内の接種完了に向けて、医師会や医療機関と連携し、更なる接種の加速に取り組んでいく。【グラフ①】
- (3) 年齢別で見ると、50代が28.7%と最も高くなっているが、前回からの接種間隔が3か月に短縮されたことに伴い、今後は60代以上の接種が加速していく見込み。  
一方、若年世代の接種率が低位に推移していることから、県医師会と連携し、SNSやテレビ、新聞広告等により、広くワクチン接種を呼びかけていく。【グラフ②】



## 2 今後の取組方向

### (1) 医療従事者の広域派遣調整

市町村におけるワクチン接種従事者の確保を支援するため、県医師会や関係医療機関等と連携し、医療従事者の広域派遣調整を実施していく。

【派遣見込み(11~12月)】 派遣先：1町、派遣人数：医師延べ4名

### (2) 県集団接種の実施

オミクロン株対応ワクチン接種の加速を図るため、12/3(土)、4(日)の集団接種では、予約枠を2,400回程度まで拡大するほか、現役世代や若年世代の接種を促進するため、接種対象者を2名以上確保できる県内の企業、団体、大学、専修学校、その他のグループ等を対象とした団体接種を継続して実施していく。

#### 【県集団接種における3~5回目実績】

接種期間	使用したワクチン	接種回数
9/24~11/6	モデルナ社2価ワクチン(BA.1対応)他	3,904回

#### 【団体接種の実績・予約状況】

接種日	延べ申込団体数	接種実績・予約状況
9/24(土), 25(日)	2団体	172回
11/5(土), 6(日)	5団体	179回
11/19(土), 20(日)	5団体	448回
合計	12団体	799回

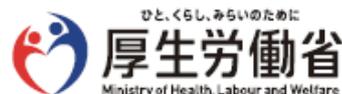
#### 【今後の実施予定】

接種日 (接種会場)	予定回数		予約状況(11/17(木)現在)	
			予約人数	予約率
11/19(土), 20(日) (ツガワ未来館アピオ)	1,800回程度	一般 800回程度	1,800人	100.0%
		団体 1,000回程度		
12/3(土), 4(日) (ツガワ未来館アピオ)	2,400回程度	一般 1,800回程度	203人	8.5%
		団体 600回程度		

※ 令和5年1月以降は、市町村の接種の進捗状況や国の動向を踏まえ、検討していく。

11/17(木)から予約開始

〈 新型コロナワクチン接種 〉  
オミクロン株に対応した  
2価ワクチンの接種が開始されました。



# 接種可能な間隔が **3か月**になりました!

ぜひ、  
**年内**の接種をご検討ください。

## 接種の対象と使用するワクチン

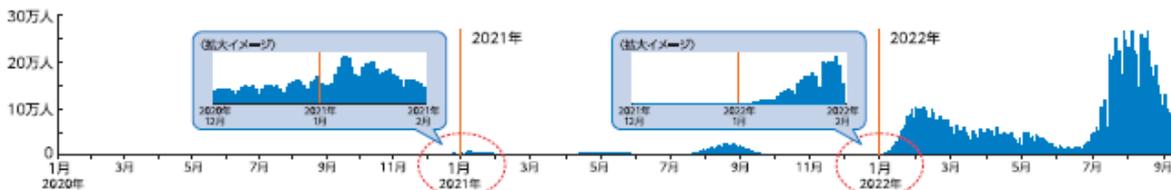
- 新型コロナの従来株とオミクロン株に対応したワクチン（「オミクロン株対応2価ワクチン」）の接種は、**初回接種（1・2回目接種）を完了した12歳以上の全ての方が対象で、一人1回接種**できます。
- 1・2回目接種を完了した、もしくは前回の接種日から3か月以上（※）経過している方は、接種可能になりました。  
（※）5か月から3か月に短縮されました。
- 例えば、9月15日に従来型ワクチンを接種した方は、12月15日からオミクロン株対応2価ワクチンを接種できます。
- 詳しくはお住まいの市町村にお問い合わせください。

〈 オミクロン株対応2価ワクチンの種類 〉	1・2回目接種対象者	3回目以降の接種対象者	
		12歳以上	18歳以上
ファイザー社ワクチン 【BA.1対応型/BA.4-5対応型】	×（使用不可）	○	○
モデルナ社ワクチン 【BA.1対応型】	×（使用不可）	×	○

（※）2022年10月時点では、オミクロン株対応2価ワクチンは、11歳以下は接種対象となりません。

これまで2年間、年末年始に新型コロナは流行しています。**2022年の年末まで**に、重症化リスクの高い高齢者のもとより、**若い方にも**オミクロン株対応2価ワクチンによる接種を完了するようおすすめします。

〈 日本国内の新規感染者数（1日ごと） 〉



出典：厚生労働省ホームページ「国内の発生状況」をもとに作成

〈 諸外国において推奨されている、オミクロン株対応ワクチンの前回の接種からの接種間隔 〉

出典：厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会資料 より

国	推奨の発表機関(※)	推奨の発表日	前回の接種からの接種間隔
日本	厚生科学審議会	2022/10/20	3か月以上
英国	JCVI	2022/8/15	3か月以上
米国	CDC/FDA	2022/8/31	2か月以上
カナダ	NACI	2022/9/1	3か月以上
イスラエル	保健省	2022/9/20	3か月以上
フランス	保健省	2022/10/6	3か月以上
ドイツ	STIKO	2022/10/6	3か月以上

(※) JCVI：予防接種・ワクチン合同委員会  
NACI：予防接種に関する諮問委員会

CDC：疾病予防管理センター  
STIKO：予防接種諮問委員会

FDA：食品医薬品局

(2022年10月17日時点)

## オミクロン株対応2価ワクチンの種類と効果

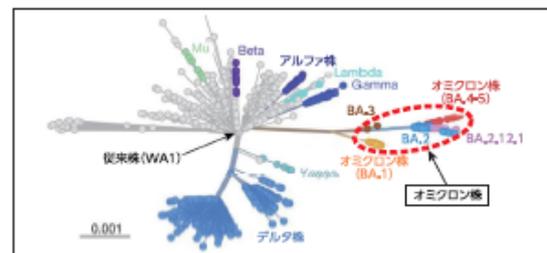
**2種類の2価ワクチン(BA.1対応型／BA.4-5対応型)が使用可能ですが、いずれも従来型ワクチン(※)を上回る効果が期待されます。**

(※)新型コロナウイルスの従来株に対応した1価ワクチン

2価ワクチンは、従来株の成分に加え、オミクロン株の成分が含まれています。オミクロン株の成分に2つの種類(BA.1とBA.4-5)があるため、2種類のワクチンがあります。その効果は以下の通りです。

- BA.1、BA.4-5は、いずれもオミクロン株の種類(亜系統)です(右図参照)。そのため、BA.1対応型であっても、BA.4-5対応型であっても、現在流行の中心であるオミクロン株に対しては、1価の従来型ワクチンを上回る効果が期待されています。
- また、BA.1対応型であっても、BA.4-5対応型であっても、従来株とオミクロン株の2種類の成分があることにより、誘導される免疫も、より多様な新型コロナウイルスに反応すると考えられます。

〈 新型コロナウイルスの変異株の枝分かれ(系統樹) 〉



(※) 出典をもとに改変

出典：Wang, Q., Guo, Y., Ikhtani, S. et al. Antibody evasion by SARS-CoV-2 Omicron subvariants BA.2.12.1, BA.4 and BA.5. Nature 608, 603-608 (2022).

## オミクロン株対応2価ワクチンの安全性

ファイザー社及びモデルナ社の2価ワクチンの薬事承認において、どちらのワクチンも従来型ワクチンとおおむね同様の症状が見られました。

〈 接種後7日間に現れた症状 〉

出典：特例承認に係る報告書より改算

発現割合	症 状	
	ファイザー社	モデルナ社
50%以上	注射部位疼痛	注射部位疼痛、疲労
10～50%	疲労、筋肉痛、頭痛、悪寒、関節痛	頭痛、筋肉痛、関節痛、リンパ節症、悪寒、悪心・嘔吐
1～10%	下痢、発赤、腫脹、発熱、嘔吐	紅斑・発赤、腫脹・硬結、発熱

### ◎ ワクチンを受けるにはご本人の同意が必要です。

ワクチンを受ける際には、感染症予防の効果と副反応のリスクの双方について、正しい知識を持っていただいた上で、ご本人の意思に基づいて接種をご判断いただきますようお願いいたします。受ける方の同意なく、接種が行われることはありません。

職場や周りの方などに接種を強制したり、接種を受けていない人に対して差別的な対応をすることはあってはなりません。

### ◎ 予防接種健康被害救済制度があります。

予防接種では健康被害(病気になったり障害が残ったりすること)が起こることがあります。極めてまれではあるものの、なくすことはできないことから、救済制度が設けられています。申請に必要な手続きなどについては、住民票がある市町村にご相談ください。

新型コロナワクチンの有効性・安全性などの詳しい情報については、厚生労働省ホームページの「新型コロナワクチンについて」のページをご覧ください。

ホームページをご覧になれない場合は、お住まいの市町村等にご相談ください。

厚生 コロナ ワクチン

検索



# 6か月から4歳のお子様の保護者の方へ

## 〈新型コロナワクチン接種に関するお知らせ〉

2022年10月



6か月から4歳のお子様も、



新型コロナワクチン接種を受けられるようになりました。

まずはこのリーフレットをお読みになり、ワクチン接種を受けるかどうか、接種する際の注意点などについて、ご参考としてください。

### 使用するワクチンと接種方法

#### ◎ 使用するワクチン

6か月から4歳用のファイザー社製ワクチンを使用します。「成人用」や「5歳から12歳用」とは接種分量が異なり、オミクロン株対応ではありません。キャンセルされる場合は、必ず早めのご連絡をお願いします。

母子健康手帳（岩手県版）

#### ◎ 接種回数

通常、1回目接種から3週間の間隔をあけて2回目接種を行い、さらに8週間以上の間隔をあけて3回目接種を行います。（3回接種＝1セットです）ほかの予防接種との間隔に注意が必要です。

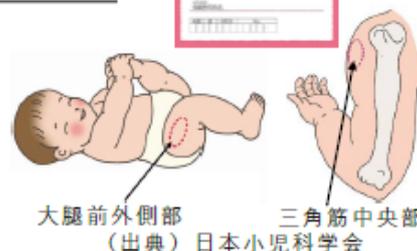
接種会場には必ず母子手帳の持参をお願いします。

また、接種期間は令和5年3月31日までです。期間内に3回接種するためには令和5年1月13日までに1回目の接種を終える必要があります。



#### ◎ 接種方法

接種方法は筋肉内注射です。6か月から2歳のお子さんや3歳以上でも筋肉量が少ないお子さんには大腿前外側（ふともも）に接種することがあります。3歳以上ではおもに上腕三角筋中央部に接種します。



大腿前外側部

三角筋中央部

（出典）日本小児科学会

### Q&A

#### Q1：なぜ、乳幼児（6か月～4歳）の接種が必要なのですか？

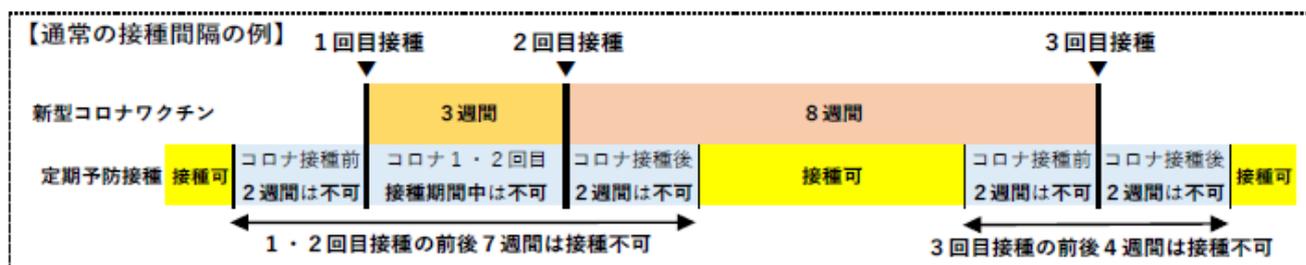
A1：乳幼児（6か月～4歳）では重症例の割合は少ないものの、新規感染者の増加に伴い重症例の報告も増えています。また、基礎疾患がある乳幼児では重症化するリスクが高くなると言われており、接種の機会を提供することが望ましいと考えられます。

#### Q2：乳幼児（6か月～4歳）の接種において、副反応など気を付けることはありますか？

A2：ワクチン接種時の緊張や痛みなどにより血管迷走神経反射が起こり、血圧の低下や脈拍の減少などが生じることがあります。意識が低下したり、失神することもあります。ワクチンに対するアレルギー症状と直接の関連はありません。立ちくらみが生じやすいお子さんや、以前に採血や注射などで似たような症状を経験された場合には接種前に申し出てください。ごくまれにですが、アナフィラキシーショックが起こることがあるため、接種後の経過観察を行います。観察中に気になる症状がみられる場合には遠慮なくお近くのスタッフに声をかけてください。ごくまれに、10代および20代で心筋炎や心膜炎が報告されていますが、軽症で回復しています。ただし胸の痛みや動悸、息切れ、むくみなどの症状がみられた場合は速やかに医療機関を受診してください。なお海外の5歳未満児約2,000人のファイザー社のデータによると、主な副作用は発熱、嘔吐、痛みで、3%程度と低く全員回復し重大な懸念は認められていませんが、このワクチンは新しい種類のワクチンのため、これまでに明らかになっていない症状が出る可能性があります。

Q3：定期予防接種を受けましたが、新型コロナワクチンとの間隔はどれくらい必要ですか？

A3：定期予防接種と新型コロナワクチンは、2週間の間隔をあける必要があります。他方、インフルエンザワクチンと新型コロナワクチンは2週間の間隔をあけることなく、同時接種も認められています。予めかかりつけ医とよくご相談のうえで接種計画を立ててから申し込んでください。



Q4：定期予防接種と新型コロナワクチン接種とどちらを優先すべきでしょうか？

A4：どちらも大事なワクチンです。定期予防接種は感染症にかかりやすい年齢などをもとに、標準的な接種期間が定められており、接種機会を逃すと費用が自己負担になる場合もあります。普段予防接種を行っているかかりつけ医と接種スケジュールをよくご相談のうえで決めてください。

Q5：食物アレルギーがあるのですが大丈夫でしょうか？

A5：基礎疾患やアレルギーのある方が必ずしもアナフィラキシーを起こすわけではありません。

Q6：ワクチンが原因で新型コロナウイルスに感染することはありますか？

A6：このワクチンで新型コロナウイルスに感染することはありません。mRNAからはウイルスの一部（スパイクタンパク質）しか生じません。ワクチンによってウイルスの構造全体が作られることはありません。

Q7：ワクチンが原因で不妊になるといううわさを聞いたのですが…

A7：このワクチンのmRNAは数分から数日で体内で分解されるといわれています。また、mRNAが人の遺伝情報（DNA）に組み込まれるものではありません。人の遺伝情報（DNA）からmRNAが作られる仕組みは一方通行で、逆方向に進むことはありません。ワクチンのmRNAが体内に長期に残ったり、精子や卵子の遺伝情報に取り込まれることはないと考えられています。

Q8：ワクチンは絶対に接種しなければいけないものなのでしょうか？

A8：難しい質問ですが、ワクチンによるメリットとデメリットを考えて総合的に判断する必要があります。ご家庭によって事情も異なり、基礎疾患の有無や重症度、社会的環境なども違います。若年者は感染しても軽症の割合が高いことも確かです。一方、だれにでも「万が一」のことは起こるかもしれませんし、基礎疾患のある方やご家族が不安に思われているのも事実です。

考えるきっかけとしてこのリーフレットをご利用いただき、必要に応じてかかりつけの医療機関などにも相談して決めてください。ワクチン未接種で差別を受けたり、その人自身が否定されることはあってはなりません。これらをよくお考えのうえで接種するかしないかを判断してください。また、保護者の方の同意なく、接種が行われることはありません。

### ◎予防接種健康被害救済制度について

予防接種では健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。まれではあるものの、なかなか無くすことはできないことから救済制度が設けられています。

新型コロナワクチンの予防接種によって健康被害が生じた場合にも、予防接種法に基づく救済（医療費・障害年金の給付など）が受けられます（※）。申請に必要な手続きなどについては、住民票がある市町村にご相談ください。

（※）その健康被害が、接種を受けたことによるものであると厚生労働大臣が認定したときは、市町村により給付が行われます。認定にあたっては、予防接種・感染症・医療・法律の専門家により構成される国の疾病・障害認定審査会により、因果関係を判断する審査が行われます。



## 6か月から4歳のお子様の保護者の方へ ＜新型コロナワクチン接種のご相談先＞



### ご相談先について

#### ◎ はじめに

新型コロナワクチン接種については、まず主治医や普段予防接種を受けられているかかりつけ医とよくご相談ください

そのうえで接種前の疑問や不安などがありましたら、岩手県新型コロナワクチン専門相談コールセンター（0120-89-5670、24時間対応）に御相談ください。お手元に母子健康手帳をご用意ください。看護師がオペレーターとして相談に対応します。



#### ◎ 接種券や予約方法に関する相談

接種券や予約方法に関する相談は、お住まいの市町村にお問合せください。

#### ◎ ワクチン接種後に体に異常があるときの相談

ワクチン接種後に体に異常があると感じたときは、岩手県新型コロナワクチン専門相談コールセンター（0120-89-5670）のほか、主治医やワクチンを受けた医療機関にご相談ください。

ワクチン接種前の接種全般に関する相談	→ 岩手県新型コロナワクチン専門相談コールセンター（0120-89-5670）24時間年中無休
接種券・予約方法に関する相談	→ お住まいの市町村の窓口 対応時間は各市町村のHPを御確認ください。
ワクチン接種後に体に異常があるときの相談	→ ・岩手県新型コロナワクチン専門相談コールセンター（0120-89-5670）24時間年中無休 ・主治医やワクチンを受けた医療機関

#### ◎ 基礎疾患のあるお子様の相談

基礎疾患があるお子様についても、まずは主治医に御相談ください。

その上で、接種前の疑問や不安などがございましたら、岩手県新型コロナワクチン専門相談コールセンター（0120-89-5670）に御相談ください。

相談内容に応じて、高度な専門相談が必要と判断される場合は、小児専門医による相談を受けられる場合があります。

ワクチンを受ける際には、感染症予防の効果と副反応のリスクの双方についての正しい情報を確認し、保護者の方に接種をご判断いただきますようお願いいたします。保護者の方の同意なく、接種が行われることはありません。また、周りの方に接種を強制したり、接種していない人に対して差別的な対応をすることの無いようお願いいたします。